今月の用語

隣に伝えたい新たな言葉と概念

【Chemobrain】

英　Chemobrain

【用語解説】

がん治療の進歩に伴い，がんを克服して生活する「サバイバー」の数は年々増えている．その晩期障害が注目され，その代表的な障害として認知機能の低下がある．抗がん薬による脳への障害として chemobrain と称されたり，精神的にすっきりせず，雲がかかったような症状から chemofog（化学療法–霧）と呼ばれたりもする．

がんの発症時にも認知機能の低下がみられることがあり，乳がんでは15–75%，脳腫瘍では90%以上などと報告されている．さらに抗がん薬による治療で，認知機能の低下が発症し，その影響が持続することが知られている．理由はまだ明らかになっていないが，脳神経関門が破壊され，炎症，神経毒性のある薬剤の脳への移行，神経前駆細胞への障害などが予想されている．抗がん薬だけでなく，ステロイド，制吐薬，痛み止め，麻酔薬などの薬剤，精神状態（鬱や不安など），サイトカイン，倦怠感，閉経，感染，高血糖，高血圧，年齢やその他の合併症も発症に寄与していると推定されている．

Chemobrain の患者さんの訴えは多岐にわたる．記憶力，処理能力，集中力の低下などがその代表である．些細に思える内容でも QOL の低下を招いたり，仕事や学校・家庭での生活を妨げることもある．診断の方法として，定期的に認知障害を評価するよりも，症状が数ヶ月以上にわたって続くときに神経精神科などを受診して評価する方が良いと提唱されている．発症原因が不明のため，治療や予防の方法も確立していない．行動療法や精神薬理学的なアプローチが注目されている．リラクゼーション，運動プログラム，作業療法，脳訓練プログラム，グループによるリハビリなどがある．サバイバー等からのピアサポートも肝要である．

（国立がん研究センター中央病院　呼吸器内科・希少がんセンター　後藤　悌）

本誌282p に記載